HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アメリカにおける石油事業の集中
Author(s)	鎌田, 正三
Citation	經濟學研究, 1, 107-14
Issue Date	1951
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/30977
Type	departmental bulletin paper
File Information	1_P107-146.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

アメリカにおける石油事業の集中

鎌田正三

北海道大學經濟學會　經濟學研究 1

アメリカにおける石油事業の發生は一九世紀の六〇年代に始まり、その歷史は比較的淺いのであるが、その發展の時期があたかもアメリカにおける獨占資本の形成期に相應し、また初期における石油が巨大な國內市場のみならず、國外市場をも對象としたほとんど獨占的商品であつたこととは、あわせて石油事業の占める地位を決定した。この集中運動の先頭に立つたものは、つねにスタンダード石油であり、僅々二、三〇年ほどの間に、他に類例を見ないほどの巨大な獨占體を築きあげた。スタンダード石油によつて採用された企業形態は、しばしばアメリカにおける他の獨占體の追從するところとなつた。この點において、スタンダード石油の集中過程は、アメリカにおけるプールからトラストを經て持株會社にいたる大支配組織の發達史を示すものともいいうるであろう。

一、

石油工業は南北戰爭以前の一八五九年に、ペンシルヴァニア州のティッツスヴィル Titusville で石油が發見されたことに始まる。三年後の一八六二年にJ・D・ロックフェラーは、オハイオ州クリーヴランドの精油業に四千弗を投資した。一八六五年S・アンドリュウスおよびW・ロックフェラーと協同して新精油會社 Rockefeller and Andrews を作り、さらに紐育に本據をもつ販賣代理店 Rockefeller and Company を組織した。一八六七年S・V・ハークネス、H・M・フレーグラーと結合して、Rockefeller, Andrews and Flagler なる新會社となつた。一八七〇年六月全會社を一社に結合して Standard Oil Company of Ohio が百万弗の資本で組織された。當時同社は大精油中心地クリーヴランドにおける最大の會社となり、クリーヴランドの二六精油所の日産一〇、〇〇〇―一二、〇〇〇バレル中一、五〇〇バレルを生産していた。[註一] しかし、一八七〇年におけるスタンダード石油は、石油發見以來の一〇年間に無から發展した數個の大精油所の一つにすぎず、その精油生産高にしても、アメリカにおける總生産高の一小部分を占めるにすぎず、その將來はクリーヴランド、石油地方 Oil Regions, ピッツバークその他における他の大精油所以上に保證されていたわ

けではなかつた。[註二]

註一　Tarbell, The History of Standard Oil Company, 1925, vol. 1, p. 49.

註二　Seager and Gulick, Trust and Corporation Problems, 1929, p. 98.

スタンダードの初期の集中にとり、欠くことのできないものは South Improvement 計畫であつた。一九七二年一月 South Improvement Comany が二百五〇万弗の資本をもつて、ペンシルヴァニア州で設立された。主として、クリーヴランドとピッツバークの若干の精油業者によつて主持された同社は、スタンダード石油グループに支配された。[註一]同社のおもな機能は、その取扱う大量の輸送を鐵道に與えるかわりに、特別の運賃すなわち同社以外のものに比し遙かに低い率で取引することであつた。したがつて、若干の精油業者を結合し、その結集した精油能力をもつて、鐵道に低率輸送を保證せしめるための組織であり、鐵道の保證によつて石油事業を支配せんとするものであつた。かくて組織は完成したが、鐵道との契約が殘つた。紐育セントラル、エリー、ペンシルヴァニアの三大鐵道が契約の對象となつた。これら三大鐵道と契約を結び、その石油輸送をこれらの鐵道に一定の比率で分割した。その契約書には油井 oil well から精油中心地および大西洋岸までの全石油の總運賃率からの割引、また當事者間の石油輸送についての割引を同社に與えねばならぬことが規定された。さらに同契約において興味ある條項は、鐵道で輸送されるあらゆる石油の運送狀は、すべて毎日同社に提出しなければならないという規定であつた。それには、委託者の氏名、積出場所、輸送さるべき製品の正確な種類と數量、受託者の氏名、積出先を示すことになつていた。かくて同社はその有利な契約をもつて、競爭者と戰うスタンダード石油に利用される强力なクラブとなつた。[註二]

South Improvement Company 計畫によつて武裝したスタンダード石油の威嚇と勸告とによつて、クリーヴランド精油業者の大部分は三ヶ月以内に倒れた。二六の精油所のうち、少くとも二一はスタンダードに身賣りした。[註三]その結果、スタンダード石油は一日の原油處理能力約一、五〇〇バレルを、僅か三ヶ月以内に一〇、〇〇〇バレルに增大した。こ

れにより、同社は一躍全國の1/5以上の精油能力に引上げることに成功した。[註四]

註一　South Improvement Company の一〇〇弗株二、〇〇〇の内譯は別表のごとし。

同社に對するスタンダード石油の持分は、五四〇株であつたが、間もなく O. H. Payne と J. A. Bostwick が、スタンダード石油の株主となつたので、スタンダード石油は全體の九〇〇株を有しその支配權を握つた。しかし、以上一三人の精油業者は一八七二年の始めには合衆國精油業の1/10以上を支配していなかつた。全國精油能力日産約四五、〇〇〇バレル（四五、〇〇〇—五〇、〇〇〇バレルといわれた）のうち、South Improvement Company の全株主の精油能力は四、六〇〇バレル以上ではなかつた。(Tarbell, ibid., pp. 58—59)

註二　Jones, The Trust Problem in the United States, 1928, pp. 49—50.

註三　スタンダード石油會社はクリーヴランドの二六の精油業者と個々的に交渉し、South Improvement Company につき說明し、スタンダードの株式または現金（特に株式）と引換えに、その精油事業の讓渡を申入れた。この申入れを拒んだものもいたが、これに對してはその無益なることを說き、これに應じないときは確實に粉粹する旨を傳えた。(Tarbell, ibid., p. 63)。スタンダードに反對した Alexander, Scofield and Company の場合は、敗北後その資本價値一五〇、〇〇〇弗のものが、約六五、〇〇〇弗（その價値の四〇ないし五五%）で買いとられたといわれる。(ibid., p. 65) また一八六九年に創業し、當時三〇%の收益をあげていた Hanna, Bashington and Company の場合も、スタンダードの申入れを拒否したが結局身賣りした。その工場にはすでに七五、〇〇〇弗が投資されており、さらに年平均三〇%が追加投資されていたものが、スタンダードの鑑定人によつて四五、〇〇〇弗と評價され、半分以下の價値で買いとられた。(ibid., p. 67)

註四　Tarbell, ibid., pp. 67—68.

South Improvement 會社の持分

William Frew	,	Philadelphia	10株
W. P. Logan	,	〃	10
John P. Logan	,	〃	10
Charles Lockhart	,	Pittsburg	10
Richard S. Waring	,	〃	10
W. G. Warden	,	Philadephia	475
O. F. Waring	,	Pittsburg	475
P. H. Watson	,	Ashtabula. Ohio	100
H. M. Flagler	,	Cleveland	180
O. H. Payne	,	〃	180
William Rockefeller	,	〃	180
J. A. Bostwick	,	New York	180
John D. Rockefeller	,	Cleveland	180
			2,000

Tarbell, ibid., vol. 1, pp. 57—58.

South Improvement Company と鐵道との契約に石油生産者は猛烈に反對した。そこで Petroleum Producers' Union が結成され、原油生産量を切下げること、South Improvement Company の一員に販賣せざること、oil creek の精油業者および結合に入ることを拒否した業者を支持すること、當該鐵道をボイコットすること、生産者が所有し支配する鐵道の建設を決議した。また South Improvement Company の特許 charter の廢止を求めるため州議會 legislature と連邦議會 Congress に代表を送つた。[註一] この運動が効を奏し、一八七二年三月鐵道は正式に South Improvement Company との契約を取消し、また四月にはペンシルヴァニア州議會は South Improvement Company の特許を取消した。しかし、スタンダードは引つゞき特別の率の割引を受けていた。[註二]

South Improvement Company の崩壊によつて、スタンダードは次のプランにとりかかつた。一八七二年八月多數の oil creek 精油業者を含み、合衆國精油關係者の4/5を包含する National Refiners' Association が結成された。その會長はロックフェラーであつた。これによつて、生産割當、價格統制、原油購入、輸送調整を行わんとした。この報はまた石油地方の石油生産者に大恐慌をきたさしめた。[註三] Petroleum Producers' Association の指示のもとで、六ヶ月間ドリルは停止され、さらに三〇日間の閉鎖を行つた。一〇月末に Petroleum Producers' Agency を設立した。この Agency のプランは百万弗の法人會社とし、その株式は生産關係者によつてのみ引受けられること、また構成員の全石油を一バレル少くとも五弗で購入すること、しからざるときは Agency の建設するタンクに石油を貯藏し、その價格の一部はタンク證書 tank certificates にて支拂うこと、かく全石油を支配することによつて、Agency は最も弱い生産者と最強の生産者を保護し、異つた地方の利害を均等化し、精油業者と輸出業者とをストックの累積から防止し、石油の賭博を防止することを期待した。この Producers' Agency の出現は、スタンダード石油グループの支配にとり重大な脅威となつた。一一月始め百万弗の株式が引受けられたことが發表された直後、オイルシティのスタンダードの代理店は Agency に一バレル四・七五弗で六、〇〇〇バレルの注文を發した。[註四] しかし生産者の側には困難があつた。ド

リルの停止、三〇日間の閉鎖にもかゝわらず、生産は增加しつゝあつた。進行中の多數の油井がこの期間中に大となつた。閉鎖は期待されたほどストックを減少させなかつた。生産者の團體はより一層生産を制限し、生産された石油を永く保持することはできなかつた。かれらのタンクは溢れており、負債に惱んでいた。そこで一二月に妥協が成立し、二〇〇、〇〇〇バレルの石油を三・二五弗で供給する契約に署名した。協定の主なる點は Refiners' Association の會社は Producers' Association の會社からのみ買わねばならぬ。後者は前者にのみ賣らねばならぬ。また差別運賃 discrimination は撤廢することゝした。しかし、この契約に署名したとき、スタンダードは依然として割引を受けつゝあつた。[註五] 生産者はこの二〇〇、〇〇〇バレルの割當に對し生産を開始したが、その結果は生産過剩をきたした。一八七三年一月突然精油業者の同盟は石油の引取りを拒絕した。生産の制限をなしえなかつたので、生産者は完全な敗北に終つた。Producers' Association は十ヶ月の努力の後、ほとんど一日にして崩壞した。しかしながら Refiners' Association の內部にも紛爭があつた。それは構成員が生産制限と價格統制を遵守しなかつたことであつた。このため、ついに一八七三年六月 Association は解散した。しかし、クリヴーランドのスタンダード石油會社はなお全國精油能力の1/5を支配しており、一八七二年に合併した二一の精油所を保持し莫大な利潤をあげていた。一八七三年に同社の輸送量は年七〇〇、〇〇〇バレルないしそれ以上と推定され、一年の利潤は百五〇万弗といわれ、このなかにはなお西部に輸送された生産高の約三五%の利潤は計算されていなかつた。[註六] この大なる利潤を一八七二年には三七%の配當に支拂つたが、一八七三年には配當を一五%に切下げ、資本の蓄積に振向けた。[註七]

註一　Jones, ibid., p. 50.

註二　ibid., p. 51.

註三　一八七二年八月の原油平均價格は三・四七½弗（その前年は四・四二½弗）であつた。この價格は一般には窮乏價格と考えられていた。今や三弗の原油價格も近いといわれた。三弗ではコスト割れであり、節約して少い利潤で滿足しても、三弗以下の價格

で生産しうる生産者は小數であつた。(Tarbell, ibid., pp. 111—112)

註四　Tarbell ibid., p. 120.

註五　ibid., pp. 123—124.

註六　ibid., p. 127.

註七　ibid., p. 128.

以上のプール協定に破れたスタンダード石油會社は、次の計畫としてその影響範圍を擴大することとした。一八七四年の夏 South Improvement Company 當時の同盟者たるフィラデルフィアの Warden, Frew and Company とピッツバークの Charles Lockhart and Company の精油所を、スタンダード石油の株式と交換に讓渡せしめた。同様の手段で兩社附近の精油所をも吸收した。その同盟は嚴秘に附され、各會社はそれぞれの名儀で機能した。同年一〇月他の重要な會社たる紐育の Charles Pratt and Company の購入にも成功した。これによつて、スタンダード石油は oil creek を除き、その支配の地たるクリーヴランドとその他の三大精油中心地において最も成功的な同盟者をえた。これらの購入を賄うために、スタンダード石油の株式は一八七五年三月三百五〇万弗に增資された。[註一] スタンダード石油のその後の集中は、一八七五年三月有名な同盟たる Central Association of Refiners (會長J・D・ロックフェラー) によつて促進された。この團體は次の方法をもつて獨立精油業者に臨んだ。精油業者にして一定月間 a term of months その工場を Association に賃貸 lease するならば、新會社の株式に應募することを許されるであろう。しかして、その構成員は自己の精油所を運轉すること。たゞしスタンダード石油には、その生産量の決定、全原油の購買、精油の販賣、鐵道およびパイプラインのレートを商議する〃變更しえざる權限 irrevocable authority〃 を與えることを規定した。[註二] これはスタンダードが支配せんとする會社に接近する强力な手段となつた。主要な精油業者の獲得が完成するや、各精油中心地の全精油アウトサイダーへの侵出が始まつた。それは可能なかぎり勸告によつてなされたが、lease や吸收を拒んだものに對しては壓力をもつて臨んだ。すなわち、競爭者の市場を破壞する低價格戰、石油の入手を困難ならしめる輸送の

拒絶、輸送車の引受の引延し等の方法がとられ、結局吸收か lease を余儀なくせしめた。[註三] 吸收されたのは精油業者のみではなかつた。積出業者 shipper にも壓迫が加えられた。その最大のものは Adnah Neyhart であり、同社の獲得はスタンダードの集中にとつて有利なものとなつた。その結果同社から原油を購入していた精油業者を、スタンダード系のバイヤーに依存せしめた。これは lease や吸收の最初の段階となつた。「あらゆる點で精油業者にその原料の入手を困難ならしめることは、企業結合の常套手段の一つであつた。」[註四] 全國のあらゆる精油中心地において勸告、威嚇または實力による整理の過程が進められた。かくて、この團體の形成によつて獨立業者は急激に減少した。その結果三年ないし四年以内に、ペンシルヴァニア北西部および石油地方の全精油業者は業界から姿を消すか、スタンダードに吸收されるかした。多くの場合、壓力によつて可能となつたこれらの合併の結果、スタンダード石油會社とその同盟者は、一八七九年までにアメリカ精油能力の九五%を獲得し、スタンダード石油トラストを結成した。これは後に一八八二年改正され補強された。[註五]

註一　リーフマンはこの同盟を、獨乙のラインウェストファーレン石炭シンジケートに擬している。(Liefmann, Beteiliguns und Finanzierungsgesellschaften, Dritte Auflage, 1921, S. 223)

註二　Tarbell, ibid., pp. 48—49.

註三　石油地方においては、獨立精油業者を吸收するために、テイッスヴィルにあるスタンダード系の Acme Oil Comany が多數の會社を買收した。一八七九年末には、テイッスヴィルの Acme とオイルシティの Imperial の二社のみが殘つた。兩社ともスタンダードの經營下にあつた。ピッツバークにおいては、一八七四年に二二ないし三〇の精油所があつた。すでに Lockhart and Frew はスタンダードに身賣りしていたが、同年末 Standard Oil Company of Pittsburg が設立され、同社は直ちに精油所の lease や買收を開始した。パイプラインおよび鐵道の輸送拒絶によつて獨立業者は完敗した。かくて一八七五年に開始されたピッツバークにおける精油所の獲得は、一八七七年に最後の一つをもその手に收めた。(Tarbell, ibid., pp. 159—161)

註四　Tarbell, ibid., p. 163.

註五　トラスト協定によつて、各社に生産が割當てられた。老朽、登屈な工場は閉鎖され、立地條件、輸送條件の不利なものは優秀

工場でも閉鎖され、立地條件ならびに設備の良好な工場には生産が割當てられた。たゞし、原油の買付、運賃率の取引、生産物の販賣はスタンダードの手中にあつた。トラスト協定下の全精油所の行つた契約は秘密に實行された。

スタンダード石油の事業の擴張には、油井から鐵道まで原油を輸送するパイプラインの支配が大いにあづかつて力あつた。油田 oil field における地方パイプラインの建設は一八六五年に始められた。これはスタンダードによつて着手されたものではなかつたが、スタンダードは早くからパイプラインの支配の重要なことを理解していた。スタンダード石油グループがパイプライン事業に入つたのは一八七三年であつた。同年スタンダードと結合していた J. A. Bostwick and Company は、ペンシルヴァニア北西部に地方パイプラインを建設した。同社は後に American Transfer Co. となり、これは明かにスタンダードの一部であつた。一八七四年スタンダード關係者は United Pipe Lines の株式の1/3を獲得した。同社はペンシルヴァニア油田地帶におけるパイプライン事業の三〇%に融資していた。この United Pipe Lines との新しい結合によつて、鐵道から利權を獲得した。同社は紐育セントラルおよびエリーの兩鐵道と協定を結び、輸送の五〇%を兩鐵道に割當てる代償として、全輸送の一〇%の割引を受けた。[註一] 一八七六年春獨立業者はペンシルヴァニア鐵道と結んで、Empire Transportation Co. を組織し、精油所の建設に着手した。スタンダードとその同盟者たるセントラルおよびエリー兩鐵道は、ペンシルヴァニア鐵道が Empire Transportation から手を引かないと見るや一戰を決意した。兩鐵道は獨立業者に對し割引の切下げを行つた。他方スタンダードは精油市場で激烈な價格戰を展開した。一八七七年八月 Empire は戰を放棄し、一〇月に最後的協定を結んだ。[註二] 殘された唯一の重要なパイプラインたる Columbia Conduit Co. もその後スタンダードに買いとられ、同年末までに石油地方の全パイプライン組織はスタンダードの手中に入つた。その結果、ほとんど一バレルの石油といえども、スタンダード組織の同意なくしては、鐵道までもたらすことができなくなつた。[註三] このパイプライン組織の支配により、鐵道に對するさらに大なる力を獲得する結果となつた。Empire の敗北の最初の効果は、鐵道との新しいプール協定となつて現われた。[註四]

註一　Jones, ibid., p. 53.

註二　この協定によつて、スタンダード石油は Empire から約百万弗（一、〇九四、八〇五・五六弗）の價値ある Oil Tank Car Trust、九〇万弗以上にのぼる獨立精油業者の財産を取得した。(Tarbell, ibid., p. 193)

註三　Jones, ibid., p. 54.

註四　すでに、セントラルやエリーのほかに、バルチモア・アンド・オハイオ鐵道がプールに參加していた。新プールは四鐵道との間で行われた。石油輸送の六三%が紐育向けであり、そのうち二一%をペンシルヴァニア鐵道に割當てた。他の三七%はフィラデルフィアおよびバルチモア向けであり、そのうち二六%をペンシルヴァニア鐵道に割當てた。スタンダードは同鐵道に年二百万バレルを下らざる量を保證し、もしそれ以下のときは不足量が實現すべき利潤と等額を支拂うこととした。その代償として毎週一〇%の總運賃の手數料 commission を受取ることとした。(Tarbell, ibid., pp. 195—196)

一八七八年の始めまでに、スタンダードはもはや精油事業において重大な困難を感ずる必要はなくなつた。なお分散せる會社が殘存し、それらのなかに營業成績の良好なものもあつたが、スタンダードはそれらを切離す地位にいたし、また少くともその原料の入手を妨害する地位にいた。ペンシルヴァニア鐵道の失敗以後は、いかなる鐵道もスタンダード石油グループに對抗して、輕率に結合することは考えられなかつた。獨立のパイプライン業者にとつても同樣に、その建設には多くの失望の道が存在した。したがつて、スタンダードのこれらの方面における戰場は靜穩であつた。しかし石油生産者についてはそうはいかなかつた。若干の石油生産者は、スタンダードの支配から免れるために、ブラッドフォード油田のリックスフォードから大西洋岸のウイリアムスポートまでの一〇九哩におよぶパイプラインを建設するため、一八七八年一一月六二五、〇〇〇弗の資本で Tide Water Pipe Co. を組織した。この當時三〇哩以上はポンプされず、また相當な高地には打勝てなかつた。その計畫はスタンダードおよび鐵道にとつて、全く非現實的なものとされていたが、それは成功した。石油事業に新時代がやつてきた。當時大西洋岸には、スタンダードと鐵道との依存から獨立を望んでいた若干の精油業者がいた。Tide Water の成功によつて、スタンダードは新しい情勢に直面した。この情勢の重大さは、太西洋岸までの原油一バレルの輸送費の比較によつて示された。[註一] これにより、原油の長距離輸送にと

つて鐵道の時代は去つたことが示された。しかしながら、スタンダードはこの競爭の結果が判明するまで待つてはいなかつた。直ちに、ブラッドフォード油田からニュージャーシー州ベヨンヌ Bayonne までの海岸パイプラインとフィラデルフィア、ピッツバーク、クリーヴランドまでのラインの建設にとりかゝつた。この競爭のため原油輸送を鐵道から切離して經營する新事業部門として、一八八一年四月 National Transit Co. が資本金五百万弗で設立された。しかし Tide Water は獨立の精油業者に支持され、これら精油業者は內外に自己の市場を有していた。スタンダードは Tide Water を破壞すべく攻擊を開始した。まづ Tide Water の取引先たる精油業を驅逐する方法がとられた。スタンダードは買收や lease の條件を寬大にしてそれを進めた。かくて、多くの會社はスタンダードの側に立つた。そこで Tide Water はやむなく、自己の精油所を建設せねばならなかつた。次は、鐵道に對し競爭による損失を防止すべき契約の履行を要求し、スタンダードに對する運賃は一バレル二〇仙に引下げられ、ついで一五仙に引下げられ、またそれは一〇仙であつたともいわれた。[註二] その他あらゆる妨害を企てたがいづれも失敗し、最後に同社に不滿をもつ小數派の二〇万弗の株式を買取つたのち同盟を申出た。戰に疲れていた Tide Water はついにこれを受け容れ、一八八三年一〇月以後 Tide Water は全體の一一1/2%、スタンダードは八八1/2%の割合で輸送を分割することを契約し、[註三] その同盟會社となつた。

註一　鐵道によるコストは當時三五仙から四五仙といわれ、公開運賃率一バレル一・二五弗から一・四〇弗で、スタンダードは恐らく八五仙支拂つていた。パイプラインを建設せる技師の推定によれば、大西洋岸までのパイプ輸送は一六2/3仙で可能といわれ、兩システムの平均差は二三仙と計算された。(Tarbell, ibid., vol. 11, p. 11)

註二　Tarbell, ibid., vol. 11, p. 14.

註三　ibid., p. 23.

一八八四年四月 United Pipe Lines は National Transit Co. に移轉された。前者は地方ライン後者は幹線ラインから成つていたが、組織を緊密にするため結合した。同社の拂込資本 paid-up capital は當時三千万弗であつた。かくて同社は全パイプラインを支配するにいたつた。Tide Water との同盟により、パイプラインの競爭は存在しなくつたが、

たゞペンシルヴァニア鐵道のみはその後も競爭の可能性があつた。同鐵道はスタンダードとの妥協後も、石油地方の獨立業者の發展を刺戟して數個の工場を建設していたこと、およびスタンダードのパイプラインがニュージャーシー州で同鐵道を横斷せねばならなかつたことのために新たなる妥協が必要となつた。一八八四年八月 National Transit Co. と同鐵道との間に契約が取交され、同鐵道に大西洋岸に通ずる全石油の二六%を與えることとした。[註一] これによつて、スタンダード・トラストの輸送部門は、その能率と獨占力においてほとんど完全な機關となつた。それはトラストの精油部門よりも完全であつた。スタンダードは Tide Water との同盟をもつて、原油の事實上全生産高を集荷した。スタンダードはこのうち九〇%を精製していた。しかし、スタンダードは同時に一般運輸業者 common carrier であつたので、その競爭者が求めるなら、そのための輸送は行わねばならなかつた。ところが、これら精油業者に比しスタンダード・トラストの費用は、その1/4にしかつかなかつた。[註二]

一八八七年四月 United States Pipe Lime Co. が、六〇万弗の資本で石油地方と紐育の獨立業者によつて組織された。同社はブラッドフォード油田から一八〇哩の原油パイプラインと二五〇哩の精油パイプラインとを建設した。新しい進歩がまた石油工業にもたらされた。それは精油の長距離パイプ輸送であつた。しかし、この進歩もまたスタンダードに負うものではなかつた。スタンダードはこれを阻止すべくあらゆる妨害を續けたが、結局成功せず、獨立業者はさらに一八九五年一一月ニュージャーシー州に資本金一千万弗の市場會社 Pure Oil Company を設立した。これらは獨立の生産者および精油業者のスタンダードに對する最初に成功せる協力的企業となつた。一八九二年スタンダード・トラストはオハイオの法廷で解散を命ぜられたが、その後數年間 community of interest 協定に依存した。しかし、この協定もまた裁判所の命に從う意志のないものとしてオハイオの法廷で攻撃され、一八九九年持株會社としてニュージャーシー州で改組した。

註一　Tarbell, ibib, p. 28.

註二　ibid., p. 29.

二、

スタンダード石油の競争戦における優位は、もちろん相當數の工場が全國主要地點に位置せることと、工場の規模の大なることであつた。これは當然、生産物の單位當りコストを相對的に低下せしめることを可能にした。しかし、會社局 Bureau of Corporations の調査によれば、優秀な獨立工場とスタンダード諸工場の間の精油コストは、それほど大ではなかつたといわれる。[註] このことから、當然にスタンダードの集中の全歴史をとおして、その主要な要素となつたものは、輸送部門にあつたことが肯ける。スタンダードの輸送の利點は、上述のごとく鐵道とパイプラインとにあつた。

註　九つの獨立業者から集めたデータによれば（Report on the Petroleum Industry, Part II, 1907）、精油コストは原油一バレルにつき二四・九一仙から三五・五三仙にわたり、平均二九・二八仙であつた。（Jones, ibid., p. 63）スタンダード工場のコストは、ミゾゥリ州のシュガー・クリーク、カンサス州のネオデシヤは一五・四六仙、テキサス州チエイスン Chaison は二七・〇仙、オハイオ州リマは二九・二九仙、カリフォルニア州リッチモンドは三二・八仙、コロラド州フロレンスは三三・六五仙（ibid., p. 64）であつた。以上六工場のうち、シュガー・クリークとネオデシヤ（兩工場では副生産物を生産する）の工場を除けば、上記の獨立工場のコストは、大體スタンダード諸工場と同様であつた。若干の優秀なスタンダード工場のコストは低かつたとはいえ、全スタンダード工場の平均コストと優秀な獨立精油所のコストの差異は、最も大きくてもガロン當り一仙の1/8を超えなかつた。（ibid., p. 64）もつとも全スタンダード工場の平均コストは發表されていないので、これは正確な比較に基くものとはいえないかもしれないが、しかしスタンダードのコストは幾分低かつたとしても、會社局は生産の能率にそれほど差異があるとは思えないと主張していた。（ibid., p. 64）

スタンダードの初期の集中にとつて、強力な槓杆となつたものは、鐵道の差別運賃 discrimination であつた。精油事業では輸送費は重大な要素である。輸送費の重要性は、精製費に精油業者の合理的利潤を含めても、市場までの輸送費より遙かに安いという事實から生ずる。[註一] そこで比較的僅かな運賃率の差異が、ある精油業者に剩余利潤の取得を可能

にする。ゆえに、輸送者に關心のあるのは運賃の額よりはその率の相違である。七〇年代におけるスタンダードの鬪爭の優越性は、その生産設備にあつたのではない。一八六九年シカゴに連絡したペンシルヴァニア鐵道と紐育セントラル鐵道間に運賃競爭が行われた。七〇年代にバルチモア・アンド・オハイオ鐵道とグランド・トランク鐵道とがシカゴに入るにおよんで、鐵道間の競爭は一層激甚を極めた。スタンダードはたまたま石油輸送に特別の運賃を要求するのに絶好な地點に位置を占めていた。クリーヴランド精油所は、紐育行の二つの鐵道（セントラルとエリー）、五大湖 Great Lakes、エリー運河によつて東部への水運に惠まれていた。鐵道運賃に不滿なら水路に代えることができた。かくて鐵道はクリーヴランドの精油所にますます大なる讓歩を與えざるをえなくなつた。スタンダードはかゝる自然的に有利な地點における最大の精油會社であつた。スタンダードはこの地位をさらに有効ならしめるため、South Improvement 計畫のもとで、三大鐵道との間に大量の輸送と特別運賃率との取引を行つた。すなわち、東廻り輸送 east-bound shipment の四五½%をペンシルヴァニア鐵道に、各二七½%をセントラルとエリーの兩鐵道に割當てた。[註二] かくて、石油地方の主要積出地點から、すべての大精油および積出中心地——紐育、フィラデルフィア、バルチモア、ピッツバーク、クリーヴランド——までの總運賃率を定めた。例えば、クリーヴランドから紐育までの公開運賃率二弗のものが一・五〇弗、石油地方からクリーヴランドまでの原油輸送八〇仙が四〇仙とされた。[註三] その割引は原油の場合は總レートの約四〇—五〇%、精油の場合は約二五—四五%といわれた。[註四] South Improvement Co. の解散以後も、スタンダードは獨立業者の運賃より、その東廻りレートについて三五仙安い一・二五弗であつた。[註五] この割引もその常套手段たる大量の輸送によつてかちえた。

註一　一九〇六年における精製費は、平均一ガロン約一仙の¾であつた。したがつて、一ガロン一仙半の價格で約半仙の純收益をもたらすことができた。しかるに、ペンシルヴァニア州およびオハイオ州の石油地方から中西部の市場までの運賃は、大體一ガロン二仙から三仙の間であつた。(Jones, ibid., p. 72)

註二　Tarbell, ibid., vol. I p. 62.

註三　ibid., p. 61.
註四　Jones, ibid., p. 49.
註五　Tarbell, ibid., p. 10).

その後、スタンダードが鐵道から受けていた差別運賃については、會社局の發行せる Report on the Transportation of petroleum, 1906 によれば、「ほとんど全國にわたつて、同社はその競爭者に對し不正な利益を享受し、これら差別運賃のあるものは巨大な地域に影響していたことが見出された。」[註一]石油輸送におけるスタンダードの差別運賃は、會社局の報告では次の四つに分類された。

(1)　秘密および半秘密レート
(2)　公開運賃率における差別運賃
(3)　輸送の分類と規則における差別運賃
(4)　專用油槽車の取扱における差別運賃

以上のうち、(1)および(2)が最も重要なものであつたが、時に應じて種々の方式が採用された。會社局の報告によれば「ほとんどいたるところで、スタンダードにより排他的ないしほとんど排他的に用いられた積出地點からのレートは、競爭者のレートより相對的に低かつた。レートはスタンダードを市場に導くために低くし、競爭者を市場のそとに止めるために高くされた。距離の僅かな差異は、スタンダードにとり有利なレートの大なる差異のための口實となつた。しかるに、距離の大なる差異がスタンダードに逆になるところでは、それは無視された。あるときは、石油を割當てる鐵道と結んで、そのレートを地方レート以下とし、あるときは鐵道による割當拒否を行う。いづれの場合も、その政策はスタンダードを利する結果となる。異なれる方式が異なれる場所と條件のもとで用いられる。しかし、その純粹の結果はメエインからカリフォルニアまでの石油の公開レートの一般協定が、競爭者に比して不合理な利益をスタンダードに與

えるということである。スタンダード石油會社が、かゝるレートの設定に、重要な發言を有していたという決論は避けることができない。[註二]」

註一　Jones, ibid, p. 73.

註二　ibid., pp. 75—76.

スタンダードの集中過程にとつて、鐵道とともに重要な役割を果したものは、パイプラインの支配であつた。[註]はじめパイプラインは、油井から鐵道までの原油を輸送する地方ラインに限定されていたが、後に長距離輸送が可能となるやこの幹線パイプラインの支配にも乘出し、これをとおして獨立業者を壓迫するとともに、鐵道をも壓迫して有利な運賃協定の取極めに寄與した。

註　スタンダードの所有する油田で生産する原油生産高は、一八九八年に全國の約¼（三五・五八％）を支配するのみであつた。しかるに、殘り¾のうちの約一〇％を除く全原油を支配していた。約一〇％以外の全原油は油井からの途中で直ちにスタンダードの保管に入る。スタンダード・パイプラインがそれを引取るとき、生産者の手から全く離れる。(Tarbell, ibid., vol. II p. 270)

パイプライン組織の集中過程は前述せるごとくであるが、スタンダードは一九〇四年ペンシルヴァニア油田のパイプライン事業の八八・七％、リマ—インディアナ油田の九三・五％を支配した。イリノイス油田では競爭線はなく、一九〇六年までに內陸油田では本質的な競爭は存在しなかつた。[註一]パイプライン事業の獨占を維持するスタンダードの方式は會社局の調査によれば次のごとし。[註二]

(1)　スタンダードは種々の方法で獨立のパイプラインの建設を妨害した。かつて獨立業者がパイプラインを建設せんとしたとき、土地收用權 right of eminient domain をパイプラインに與える法律の通過を、その力を利用して妨げた。その取締りの法律の欠如していたとき、およびそれが存在していたときですら、ある程度獨立のパイプラインが通過せねばならぬ土地を買上げたり、その支配を獲得したり、また鐵道をしてその路線 trucks を橫斷する權

利を拒否させるように働きかけることによつて、その建設の妨害を可能にした。

(2) スタンダードが獨立のパイプラインの建設を妨害しえないときは、その株式の取得によつてそれを支配せんとした。

(3) あるときは、スタンダードは獨立パイプライン業者と石油生産者との關係に楔を打ち込んだ。この政策はしばしば原油施設ないしは精油所の買收によつて達せられたこともあつた。この手段によつて獨立ラインの取引量は制限され、そのコストは比例的に增加した。

(4) スタンダードは獨立パイプラインの達しうる地域で生産される原油にプレミアム附支拂をなして、獨立業者の輸送すべき原油の入手を困難にした。獨立業者にとつては、利潤が減少するのでこのプレミアム附支拂が不可能であつた。獨立パイプラインは、すべて限られた地域における比較的小會社であつたので、スタンダードのプレミアム附支拂は、かれらの利潤を大いに減少せしめた。しかるに、スタンダード自體は、その總取引量のうえで比較的小さな損失を蒙つただけであつた。プレミアム附支拂は、全體としてパイプライン事業の競爭を阻止するためにとつたスタンダードの不正手段のうちで、最も重要なものであつた。

註一　Jones, ibid., p. 66.

註二　ibid., pp. 67—68.

一九〇六年 Hepburn Act が通過し、これによつてパイプライン業者も、一般運輸業者 Common Carrier として、合理的、非差別的レートの賦課と州際商業委員會 Interstate Commerce Commission に對するこれらレートの提出が要求された。しかしながら、同法の立憲性が論議され、他方スタンダードの支配するパイプライン諸會社は、これを承認することを拒否したため、同法は實際上無効ならしめられた。これに關する會社局の報告[註一]によれば、

(1) 若干のスタンダード・パイプラインは、委員會に運賃表を提出せず、アウトサイダーに對し一切の石油輸送を拒

否した。またそれを避けるため、あるときはそれらの事業を個々の州の境界内に制限し、また少くとも制限を免せかけようとした。

(2) 若干のスタンダード・パイプラインは、委員會にそのレートを提出したが、これらレートは同一地點間の鐵道レートとほとんど同一であつた。さらに、そのレートはコストを遙かに超過しており、不合理なものであつた。

(3) この點で法律を遵守せるスタンダード・パイプラインの提出せる運賃表も、掲げたものより脫漏せるもの丶方が遙かに多かつた。例えば、紐育州およびニュージャーシー州において、紐育港までのレートは示されておらず、メリーランド州のバルチモアまでのレートも示されていなかつた。これらの地點こそ、アウトサイダーが石油を輸送せんとしている地點なのであつた。他方誰も石油を輸送しようとしない地點には多くのレートが掲げられた。

(4) スタンダード・パイプラインが快く運賃表を提出したときですら、事實上輸送を妨害する規定を設けた。スタンダードの提出せる大部分の運賃表は七五、〇〇〇バレル以上の輸送量たることを要求した。またあるものはアウトサイダーに對し、事實上使用禁止に等しい最小限三〇万バレルを要求した。

Hepburn Act の立憲性は、結局一九一四年最高裁判所の判決で支持されはしたが、この間八年間もスタンダードは法律の効力を停止することに成功した。スタンダード・パイプラインは高率なパイプライン・レートを設けており、スタンダード精油所も同様にこれを課されていたが、これはスタンダード組織にとつては無關係な事柄であつた。それは全體として、スタンダード組織の利潤が、輸送部門で作られるか精油部門で作られるかという問題にすぎなかつた。しかし獨立精油業者にとつて、高いパイプライン・レートは死活の問題であつた。

原油輸送に合理的レートを課することを拒んだパイプラインの支配は、さらにスタンダードに對し獨立業者以上の利益を與えた。それは精油所の位置を獨立業者より有利な地點におくことを可能にしたことであつた。かくして、スタンダード精油所は、その大部分を消費中心地に位置せしめることができた。最大のものは大西洋岸の二大精油所とウィッ

ティング精油所であつた。スタンダード精油所を油井から遙かに離れたところに位置することを可能にしたのは、もちろん原油輸送の低いコストであつた。他方パイプラインを有しない精油業者は、その高率のレートのために、原油供給地附近に位置せざるをえなかつた。かくて、獨立精油業者の主たる中心地は、一九〇六年には西部および北西部ペンシルヴァニア、北西部オハイオであつた。大西洋岸には四つの獨立工場があるのみで、西部および南部市場への供給地點たるウィッティングには一つも存在しなかつた。[註二]

註一　Jones, ibid., pp. 68—69.

註二　ibid., pp. 70—71.

次のスタンダードの優位性は價格戰に示される。スタンダードの石油事業における和解せざる敵は、つねに石油生産者であつた。スタンダードは石油生産については、精油業やパイプラインのごとく集中を行わなかつた。もしそれが現實的であつたならば、集中はまず石油生産部門から始められねばならなかつたはずである。しかしそれは非現實的であつた。油田は余りにも廣大であり不定であつた。それは投機的性質を有し、大なる危險の存する事業であつた。スタンダードは生産者に生産制限を勸告したが、一大鑛床が發見されるごとに、價格の設定は一擧に覆えされた。これが石油生産の集中を妨げた原因であつた。したがつて、石油生産を有望なすでに發展せるもののみにかぎり、單なる講買者たることによつて生産を支配せんとした。このために、莫大なストックによる原油の低價格と、集荷、輸送、貯藏のための高い費用とを結果し、結局精油業とパイプラインの集中にともない、精油業者の利潤を漸次增加せしめ、他方石油生産者の利潤を漸次減少せしめることとなつた。一八九五年以前、原油は紐育、ピッツバーク、オイルシティの石油取引所で相場が立てられていたが、一八九五年にこれら取引所で立てられた價格で購入しないというスタンダードの通告のために中止となり、爾來スタンダードが價格を決定した。[註一]

一八七九年末に全國精油能力の九五%を支配し、その後若干この割合は減退したとはいえ、スタンダードの市場支配

力は維持された。[註二] したがつて、精油價格も原油價格と同樣、スタンダードの本部から發せられた。しかし、この價格支配力にも次のごとき限界はあつた。一八七六年夏から一八七七年二月にかけて、原油價格の騰貴に便乘して、その値上りより遙かに高い精油價格を設定した。このため精油の輸出は減退し、內外の市場で獨立業者を刺戟した。一八八〇年に今度は原油の騰貴ないし可能的騰貴の口實なしに、突然精油價格を引上げた。再び精油の輸出は減退し、原油の輸出は增加した。こゝでも競爭がその後に從つた。このことはスタンダードをして次のことを確信せしめた。「石油を非常に高價にすることは興味と利潤がいかに大であろうとも結局償わず、市場を弱め競爭を刺戟するものであるということであつた。[註三]」スタンダードはこのために、市場を破壞することなしに、それを支配するできるだけ高い利潤を目標とした。[註四]

一八八八年西ヨーロッパの市場に、ロシアの石油が始めて輸入され、重大な役割を引受けはじめた。一八九二年原油價格は据置であつたのに、輸出精油價格は下りはじめた。一八九三年および一八九四年を通じ、原油價格が値上りしたのに、精油價格は据置かれた。ロシア石油、アメリカの獨立業者、獨乙の精油業者の同盟は、スタンダードの市場を脅かした。スタンダードはこれを覆えすために、輸出精油價格を低下したのみならず、ヨーロッパに精油工場を設けた。この鬪爭の相手がアメリカの獨立業者のみであつたならば妥協も可能であつた。しかし、ロシア石油に續いてアジアの石油もこのゲームに參加したことにより、輸出精油價格の低下に導いた。

註一　Jones, ibid., p. 61.

註二　その後におけるスタンダードの精油生産高は次のごとし。

一八九四年	八一・四%	一八九五年	八一・八%	一八九六年	八二・一%	一八九七年	八二・四%
一八九八年	八三・七% (以上 Tarbell, ibid., vol II, p.396)	一九〇四年	八四—八六% (Jones,ibid., p. 59)				

獨立業者の競爭の効果は、その總生産高が多數の業者に分散されていたので、この數字の示すところよりさらに小であつた。一九〇四年に約七五の獨立精油業者が存在した。「獨立業者の生産高が二、三の大精油所に集中されていたなら、スタンダードとの競

爭はより一層活潑で成功的であつたろう。」(Jones, ibid., p. 59)

註三　Tarbell, ibid., vol. Ⅱ, p. 206.

註四　ibid. p.206

他方、國内市場は輸出市場よりも激しい變動を蒙つた。低い輸出精油價格を補うために、しばしば高い國内價格が採用された。スタンダードのロシア、ルーマニア、アジアの石油との戰いのために、國内市場は高い價格を支拂つた。[註一]國内精油價格には規制的價格はなかつた。スタンダードは國内市場において、原油のコスト以下の價格から一〇〇%ないしそれ以上の利潤を含む價格で販賣した。一八七九年以來大なる競爭は存在しなくなつた。獨立業者は余りにも倭小であつたので、活潑な競爭は行われなかつた。したがつて、この獨占體が遭遇する競爭は、僅かに地方的なもののみにすぎなかつた。その結果、種々の地點に精油價格の種々なる變動を惹起した。價格は州ごとに異つたが、同一州内においても差異が存した。一九〇一年の照明油 illuminating oil の卸賣價格（運賃込價格）につき、同一州内の價格差の最高はオレゴン州の一ガロン八仙（一二$\frac{1}{2}$仙—二〇$\frac{1}{2}$仙）、最低でもロードアイランド州の一$\frac{1}{2}$仙（八$\frac{1}{2}$仙—一〇仙）であつた。前者の場合、運賃は精々二ないし三仙といわれた。[註二]州別の價格差については第一表のごとし。

この表から明かなことは、照明油の平均價格はデラエーア州が最低（一ガロン七・七仙）コロラド州が最高（一六・二仙）であつた。また北部國境からメキシコ灣にいたるミシシッピー流域内の價格は、オハイオ州の八・五仙から、アーカンサス州の一三・九仙にわたつていた。この地方はインディアナ州のウイッティング、オハイオ州のクリーヴランドおよびリマの各スタンダード精油所から供給を受けていた。これらの精油は同一種類の原油を使用し、大體同一の生産費であつた。事實この地方の大部分は、主としてウイッティング精油所に依存していた。[註三]地域的價格差の非常に著しい例は大平洋岸であつた。スタンダードの精油はサンフランシスコ附近の大精油所で行つていた。この平均價格は、南カリフォルニア七・二仙、北カリフォルニア一二・四仙であつた。これは南カリフォルニアには獨立の精油所が存在し

第1表　照明油の各州平均價格（運賃差引）　1904年12月　1ガロン當り

北大西洋地方	
メエイン	10.4仙
ニューハンプシヤ	10.3
ヴエルモント	9.0
マサチユセッツ	9.9
ロードアイランド	9.6
コネチカット	8.9
紐　育	10.0
ニュージャーシー	9.8
ペンシルヴァニア	8.7
南大西洋地方	
デラエーア	7.7
メリーランド	9.2
ヴァージニア	9.7
ウェストヴァージニア	9.0
ノースカロライナ	10.3
サウスカロライナ	10.8
ジョージア	11.6
フロリダ	12.8
北中央部地方	
オハイオ	8.5
インディアナ	9.3
イリノイス	9.1
ミシガン	9.0
ウイスコンシン	9.2
ミネソタ	9.6
アイオワ	10.2
ミゾウリ	10.9
ノースダコタ	11.1仙
サウスダコタ	12.9
ネブラスカ	10.5
カンサス	11.4
南中央部地方	
ケンタッキー	9.4
テネシー	11.6
アラバマ	11.6
ミシシッピー	9.8
ルイジアナ	9.5
アーカンサス	13.9
インディアンテリトリー	12.5
オクラホマ	14.0
テキサス	11.6
西部地方	
モンタナ	15.6
アイダホ	15.6
ワイオミング	15.6
コロラド	16.2
ニューメキシコ	13.2
アリゾナ	10.7
ユ　タ	14.8
ネバダ	16.4
ワシントン	15.7
オレゴン	15.3
カリフォルニア	11.1
ノースカリフォルニア	12.4
サウスカリフォルニア	7.2

Jones, ibid., p.78

たことによる。また同一源泉から供給を受けているオレゴン州とワシントン州において、その價格（運賃差引價格）は、前者は一五・三仙、後者は一五・七仙であつた。北大平洋諸州では全く同一の精油に對し、南カリフォルニアより二倍以上も高かつた。[註三]ガソリンの場合も照明油と事實上同一の價格變化を示した。價格の著しく低い多數の都市について、その原因を調査せる會社局は、これら低價格が多くの場合、活潑な競爭の存在する地域であることを發見した。すなわち、「事實スタンダードが競爭者に遭遇しない地域、なかんずく競爭者らしいものがほとんど存在しない地域では、全

く超過價格を課し、他方競爭の活潑なところでは、しばしばスタンダードですら、ほとんど利潤のなくなる點まで、またコストの若干高い競爭者がよりしばしば利潤のなくなる點まで、値下げを行うことが多いという證據は絶對に決定的である。」[註四]

註一　Tarbell, ibid., vol. II p. 217.
註二　ibid., p. 219.
註三　Jones, ibid., p. 79.
註四　ibid., p. 80.

地方價格差の遂行にあたつて、スタンダードはしばしば虚僞の獨立會社を利用した。これらの會社によつて、スタンダードはその影響下にある全取引に對し、直接に價格戰に臨むよりは、價格低下の追加損失を蒙ることなしに、獨立精油業者の取引先に價格切下げを行わせることができた。またこの方法によつて、しばしばトラストから購買することを拒むという形をとつた反トラスト感情を克服した。政府はスタンダードの運營する虚僞の獨立會社として六三社をあげた。[註一]またスタンダードはその競爭者の事業、取引に精通していたので、効果的に價格切下政策を行うことができた。これら情報は、從屬市場會社の情報網、自己の社員の調査、鐵道從業員の買收などによるものであつた。さらにスタンダードは、油槽車 tank car、給油ステーション tank station、給油車 tank wagon によつて小賣商人と直結し、ときには消費者とさえ取引した。これは仲介人を通ぜずしては、取引しえなかつた獨立業者にとり窒息的競爭となり、種々の市場において價格の調整を可能にした。この制度はまたスタンダードの獨占維持に寄與した。かくて、全國にわたつて營業するスタンダードは、競爭者の存在する地方での値下げが可能であり、その損失を他の地方でえた利潤によつて相殺しえた。限られた地方で營業する獨立會社は、それゆえ一般にスタンダードの勢力下に服從しなければならなかつた。會社局の報告によれば「スタンダードは最近一〇年間終始原油コストに比し、絶對的にも相對的にも精油價格を引上げ

ることに力を用いてきた。[註二]」したがつて、スタンダードは競爭者に對してのみならず、消費者に對してもほとんど考慮を拂わなかつたようである。[註三]

註一　Jones, ibid., p. 81.
註二　ibid., p. 87.
註三　ibid., p. 87.

三、

スタンダードは連邦政府によつて起訴され、一九一一年五月最高裁判所によつて解散の判決を受けた。これによつてスタンダードは三三の獨立會社に分解した。しかしながら、これらの會社の株式は以前の持株會社を支配したと同一の株主によつて所有されていた。これら株主は大なる利潤に對して、これまでと同樣に鋭敏であつた。かれらは三三の會社が相互の領域を侵し合うときは、かゝる利潤が喪失することを熟知していた。解散以前の各會社は、生産、輸送、精製、取引に關して、その領域を地圖で現わし、かなり精密な線を引いていた。「解散の判決はこの均衡を亂さなかつた。[註一]」各會社は引續き紐育ブロードウェイ二六番街でその事務をとつていたし、また解散以前と同樣な方法と地域において機能を續けていた。「それゆえ、裁判所の判決は直接には同工業に競爭を打立てなかつた。あるスタンダード石油會社は特殊な地理的地方で機能し、特殊な工業部門を引續き支配した。價格支配は直接には影響されなかつた。[註二]」パイプライン部門においても、解散以前と同樣の狀態であつたようである。連邦通商委員會 Federal Trade Commission の報告（Report on Pipe Line Transportation of Petroleum, 1916）は、スタンダード石油グループが、パイプライン分野でも依然としてミシシッピー東部の市場に本質的利益をえていることを指摘した。[註三]

註一　Laidler, Concentration of American Industry, 1931, p. 18.
註二　ibid., p. 18.

註三　Seager and Gulick, ibid, p. 126.

しかしながら、石油事業が東部から西部に移行するにしたがい、急速に增大する油量を處理する貯藏タンク、パイプラインに對する大投資が要求された。また新資本がこの事業に導入され、若干の獨立會社の重要性は增大した。これと同時に、アメリカ石油事業に占めるスタンダードの支配的地位にも變化があつた。一九〇四年スタンダード諸會社は精油生産高の八五%前後を占めており、この割合は一九一一年の解散のときまで實質的に維持された。ところが、一九二一年末原油處理能力日産二百万バレル以上の精油所が全國に四七九社も存在した。このうち僅か四五%がスタンダードに屬した。[註一] 一九一一年―一九一九年間に一四二の有名な石油會社が總資本一、一六〇、六七八、三五四弗をもつて設立された。これは同期間におけるスタンダードの增加の二倍であつた。そして、それはほとんどスタンダードの數字に達した。[註二] しかし、これを轉機として一九二二年以後、スタンダード・グループはその基礎を失うかわりに、全體の五〇%の生産を確保した。この割合は爾來小さな變化をもつて維持された。[註三] 五〇%の生産が市場を支配するか否かは輸送部門における狀態を見なければならない。パイプラインについていえば、一九〇四年パイプラインによる原油全體の八〇―九〇%を輸送していたものが一九二〇年には（州際商業委員會によれば）全國州際パイプラインの六八%に減退した。しかし、この割合は一九二六年までに七二%に引上げられたので、[註四] スタンダードの支配的地位は維持された。

一九二六年にアメリカ石油事業に二〇の巨大會社が存在した。これはスタンダード諸會社一〇社と獨立會社一〇社から成つていた。各二〇社は一九二六年にそれぞれ一億弗以上の資本を投下した。六〇億弗を僅かに下廻る結合資本中、スタンダード系一〇社は六〇・五%を占めていた。Pan-American Petroleum and Transportation Company（前記獨立會社の一）が、Standard Oil Company of Indiana により獲得されたので、この割合は六四・四%に引上げられた。[註五]

これら巨大會社間には價格形成に關し、なんらかの形式的協定は存在しなかつたようであるが、原油價格および精油價格はスタンダード・グループの主導權に從つていたようであつた。連邦通商委員會は一九二〇年に「今日價格の主導權

は一般にスタンダード各社に殘されているようである。」[註六]といつていた。

註一　Seager and Gulick, ibid., p. 131.
註二　Laidler, ibid., p. 27.
註三　Seager and Gulick, ibid., p. 131.
註四　ibid., p. 131.
註五　ibid., p. 132.
註六　ibid., p. 132.

分散されたスタンダードの三三會社中最も重要なものは、一九三〇年當時つぎの五大會社であつた。

Standard Oil Company (New Jersey)

國内最大の石油會社にして、その世界的覇權は、Royal-Shell によつてのみ挑戰される。一九一一年同社は精油用原油の僅か一〇%を生産していたが、その後國内および國外の從屬會社をとおして需要の半ば以上を生産するようになつた。一九二七年自らは純粋の持株會社たる Standard Oil Company (New Jersey) として改組し、精製および取引の機能を行うものとして、從屬會社 Standard Oil Company of New Jersey (その保有率二〇—二五%といわれる) を創設し、運送、調査その他の事業を行うために追加會社たる Standard Oil Shipping Co. および Stndard Oil Development Co. を設立した。この持株會社は各從屬會社の株式を保有し、收益を受取り、各社の豫算を統制し、活動の調整を含む監理的支配を行う。しかし、單なる經營簡素化のための手段ではない。他の重要な從屬會社たる Humble and Carter は、内陸地域における最大の原油購買者の一つであると同時に、國内における最大のパイプラインの一つをも所有し、また天然ガス工業にも重要な地位を占めていた。Imperial Oil をとおしてカナダの石油事業の主要部分を支配し British Ieles の主要部分は Anglo-American Oil の獲得をとおして保證されていた。近年藥品工業にも進出し、また Ethyl Gasoline Corp. の所有を General Motors と分割した。

Standard Oil Company of New York

紐育、ニューイングランドの精油と取引の六〇%を占める。事實同社はアメリカ精製生産物の最大の取引者であると同時に大輸出業者である。その後重要な生産會社たる Magnolia Petroleum および General Petroleum（加州）を買收し、Vacuum Oil Cmpany をも同社内に吸收した。

Standard Oil Company of Indiana

中西部およびロッキーにおける最大の取引者であり、世界におけるガソリンの最も廣範圍な生産者といわれる。全國ガソリン事業の二〇%を占める。一九二六年メキシコ、ヴェネゼラの Pan-American Petroleum Company の約八〇%を所有した。一九三〇年 Sinclair Crude Oil Purchasing Company と Sinclair Pipe Line Company の Sinclair 持分を買入れ、Standard Crude Oil, Purchasing and Pipe Line Co. を形成した。これにより同社はテキサスからカンサスシティまで、カンサスシティからワイオミングの同社の精油所までのパイプライン施設の全支配をえた。

Standad Oil Company of California

カリフォルニア市場の支配者である。一九二六年に Pacific Oil Company の獲得によつて、その支配的地位を強化した。アメリカ最大の原油生産者にして、世界第三の精油業者と看做されている。メキシコ、コロムビア、ヴェネゼラ、ペルシア灣に相當の保有を有する。

Prairie Oil and Gas Company

內陸油田の最大の原油購買者および輸送者であり、また重要な石油生産者である。同社の精油關係は小工場のみであり、主として原油購買會社であり、自己のパイプラインを建設した。しかし、その後同社の取引先が自己の石油を輸送することとなつた結果、大取引先を失い購買部門から引退を發表した。※

※　以上の諸會社は、一九三〇年當時のものであり、その後における變化は明らかではない。

つぎに一九三〇年における五大スタンダード各社の資産および純所得を、同年の五大獨立業者のそれと比較する。

第2表　五大スタンダード諸會社の資産および純所得（一九三〇年）

	資産	純所得
		百万弗
Standard Oil Company of New Jersey	一、七七一百万弗	五七
〃 New York	七二〇	一六・五
〃 Indiana	八〇一	四六・四
〃 California	六一〇	四六・六
Prairie Oil and Gas	一九六	一四・三

Laidler, ibid, p. 22

第3表　五大獨立會社の資産および純所得（一九三〇年）

	資産	純所得
		百万弗
Gulf Oil	七六二百万弗	一〇・六五百万弗
Pure Oil	五八二	一八・四
Texas Corp.	五八一	一五
Sinclair Consolidated	四〇四	一二
Shell Union	六七七	(d)五

Laidler, ibid., p. 27. より

競爭的な獨立會社が出現し、スタンダード・グループ相互間にも競爭が幾分鋭くなつたといわれるが、一九三〇年代はじめにおける精油部門の五〇%とパイプラインの七二%の支配をとおして、アメリカ石油事業界において占めるスタ

ンダードの地位は動揺しなかつたようである。

四、

一八六二年四千弗の資本をもつて精油所を創設せるロックフェラーの會社は、一八七〇年には百万弗の資本を有するStandard Oil Company of Ohio となつた。一八七九年 Standard Oil Trust を結成し、一八八二年にはこのトラスト協定は改正され、資本金は七千万弗に引上げられた。九人の受託者 trustees[註] が全スタンダード各社の株式を保有し、それと引換えに各株主にはトラスト證券 trust certificates が交附された。この受託者團 Board of Trustees は、各株主よりその運營を委託されたものとして、スタンダード全組織を支配した。

註　J. D. Rockefeller, William Rockefeller, J. D. Archbold, O. B. Jennings, Henry H. Rogers, Charles Pratt, H. M. Flagler, Benjamin Brewster, W. H. Tilford

一八九一年トラストは解散を命ぜられ、八四のトラスト構成會社は、第四表に示される二〇の外見上獨立の會社として存續した。トラストが解散したとき、その構成會社が一〇年以前に有していた七千万弗の資本は、一億二千百余万弗に增加していた。さらに資産（評價資本價値）は、資本金を約二千万弗超過していた。トラスト解散當時ロックフェラーは、スタンダード・トラストの九七二、五〇〇持分中二五六、八五四を保有していた。

一八九二年トラストは清算を余儀なくされたが、清算トラストとして引續き存續した。それは常時清算の狀態 state of stationary liquidation となつた。なぜならば、一八九二年末トラスト證券四七七、八八一持分が未取消となつており、一八九六年末にもこの狀態が續いたからであつた。未取消の舊トラスト證券は引續き配當を受けていたので、一八九三年オハイオ州がこれに對し課稅せんとした。證券所有者はこれを拒絶しその事件を法廷に持込んだ。その結果證券

社のほかに、他の五〇社(そのなかに資本金二千五百万弗の Standard Oil Company of California も含まれていた)を包含する Standard Oil Company of New Jersey なる持株會社を組織した。その資本金は一億一千万弗(普通株一億弗、優先株一千万弗)となつた。舊トラスト證券またはその引繼たる assignments of legal title に對し、新スタン

第4表　トラスト解散當時のスタンダード系諸會社

	資　産	資本金
Anglo-American Oil Co.	6,913,639.49弗	5,000,000弗
Atlantic Refining Co.	8,631,376.67	5,000,000
Buckeye Pipe Line Co.	7,941,038.15	10,000,000
Eureka Pipe Line Co.	1,547,055.16	5,000,000
Forest Oil Co.	3,528,813.11	2,500,000
Indiana Pipe Line Co.	2,014,053.91	1,000,000
National Transit Co.	25,796,712.97	25,455,200
New York Transit Co.	4,999,300.00	5,000,000
Northern Pipe Line Co.	707,067.00	1,000,000
Northwestern Ohio Natonal Gas Co.	1,396,760.00	3,278,500
Ohio Oil Co.	8,260,378.04	2,000,000
Solar Refining Co.	711,793.87	500,000
Southern Pipe Line Co.	3,279,018.28	5,000,000
South Penn. Oil Co.	3,021,654.87	2,500,000
Standard Oil Co., Indiana	1,038,518.61	1,000,000
〃 Kentucky	3,604,800.78	1,000,000
〃 New Jersey	14,983,943.30	10,000,000
〃 New York	16,772,186.29	7,000,000
〃 Ohio	3,426,014.72	3,500,000
UnionTank Line Co.	3,057,187.41	3,500,000
	121,631,312.63	
20社の資本金	102,233,700.00	
資本金に對する資産の超過額	19,397,612.63	

Tarbell, ibid., vol II, p. 374.

所有者は勝訴した。[註一] しかし、この違法な證券は現實に四半期毎に大なる配當を受けており、そのために大なる市場價値を有していた。他方、各二〇會社の一株はスタンダード・トラストの二七持分に値していた。したがつて二七持分の所有は各會社の一株の端數株と交換されうるのみであり、これら端數部分には配當が支拂われなかつた。そこでトラスト證券所有者は配當を確保する途を選んだ。小證券保有者は四半期配當を受け、しかも租稅を免れていたので清算を好まなかつた。[註二]

ニュージャーシー州の會社法の改正にともない、一八九九年以上の二〇會

ダード會社の普通株が與えられた。この株式の發行額は一九〇四年六月九七、四四八、八〇〇弗であり、その市場價値は當時六四三、一六二、〇八〇弗であつた。[註三] 株主數は一八九九年に約三、五〇〇人であつたが、その株式の半數以上は取締役によつて所有されており、その約1/3はロックフェラー個人によつて所有された。Standard Oil Company of New Jersey は親會社として、全國を一一の市場地區に分割し、そのおのおのに單獨の Standard Oil Company を機能せしめ、また從屬會社はそれぞれ專門化が行われていた。[註四] 主要會社としてはつぎのものがあつた。[註五]

原油生產會社

South Penn Oil Co.　　Ohio Oil Co.

Forest Oil Co.

輸送會社

National Transit Co.　　Buckeye Pipe Line Co.

Indiana Pipe Line Co.　　Eureka Pipe Line Co.

精油、市場會社

Atlantic Refining Co. of Philadelphia

Standard Oil Company of New York

〃　Indiana

〃　Kentucky

〃　Ohio

〃　Iwoa

外國會社

Anglo-American Co.

さらに、一九一〇年には Standard Oil Company of New Jersey は、直接に六二會社の證券を保有し、外國における五三の會社を支配していた。[註六] この新しい持株會社は一四人の取締役[註七]によつて、舊トラストと同樣に經營された。

註一　裁判所の判決理由は「スタンダード・トラストは違法の組織であり、その證券は有効性を有しない。あらゆる目的にとり無効なる證券が租稅目的について、なお有効なりとすることは奇怪なことであろう。」(Tarbell, ibid., p. 257) というにあつた。

註二　Tarbell, ibid., pp. 257—258.

註三　Tarbell, ibid., p. 265.

註四　燈油 lubricating oil 會社五、原油會社三、パイプライン會社一四、tank-line 會社一、市場會社六、天然ガス會社一六、さらに七つのパイプライン會社と精油會社が密接に同盟を結んでいた。(Laidler, ibid., p. 15)

註五　Tarbell, ibid., p. 265.

註六　Liefmann, a. a. O. S. 224.

註七　John D. Rockefeller, William Rockefeller, Henry M. Flagler, John D. Archibold, Henry H. Rogers, W. H. Tilford, Frank Q. Barstow, Charles M. Pratt, E. T. Bedford
Walter Jennings, Jamees A. Moffett, C. W. Harkness, John D. Rockefeller, Jr., Oliver H. Payne

一九一一年 Standard Oil Company of New Jersey は解散を命ぜられ第五表の三三會社に分解した。[註一]

しかしながら、三三會社は以前の持株會社を支配したと同一の株主によつて所有された。解散の際、Standard Oil Company of New Jersey には九八三、三八三株が存在したが、このうち多數株を所有するものは次のごとくであつた。[註二]

John D. Rockefeller	二四四、四一九株
Charles Pratt	五一、七七八
C. W. Harkness	四三、三一三

H. M. Flagler　一五、四五五
H. M. Rogers（前社長）　一四、九六四
William Rockefeller　七、九七四
General Education Board（ロックフェラー財團）　一四、四七一

第 5 表

創立年度	會社名
1870	Atlantic Refining Co.
1893	Borne Scrymser Co.
1886	Buckeye Pipe Line Co.
1880	Chesebrough Manufacturing Co.
1913	Continental Oil Co.
1891	Crescent Pipe Line Co.
1901	Cumberland Pipe Line Co.
1890	Eureka Pipe Line Co.
1901	Galena Oil Co.
1891	Indiana Pipe Line Co.
1892	National Transit Co. of New York
1889	Northern Pipe Line Co.
	Ohio Oil Co.
1900	Prairie Oil & Gas Co.
1886	Solar Refining Co.
1890	Southern Pipe Line Co.
1889	South Penn. Oil Co.
1886	South West Pennsylvania Pipe Lines
1809	Standard oil Co. of California
1889	〃 Indiana
1892	〃 Kansas
1886	〃 Kentucky
1806	〃 Nebraska
1882	〃 New York
1870	The Standard Oil Co. (Ohio)
1891	Swan & Finch Co.
1891	Union Tank Line Co.
1887	Washington Oil Co.
1906	Vacuum Oil Co.
	Waters Pierce Oil Co.
	Anglo-American Oil Co.

解散以後においても、スタンダード・グループは相互に密接に機能していたことはすでに述べたところである。その後、スタンダードの支配機構に變化があつた。ロックフェラー一世の保有の大部分は一九二六年までに、その子供なかんづくロックフェラー二世および多くのロックフェラー財團に譲り渡された。かくて、ロックフェラー二世は、スタンダード諸會社中七社の最大の株主となつたが、議決權附株式の各社における保有率は二三・六%から一〇・六%にすぎなかつた。またロックフェラー財團の保有率は四社の二三・七%から五・一%であつた。[註三] その他の指導者の株式の分散

はさらに大であつた。分散された株式は全國の株式取引所、從業者持株制度、財産の清算をとおして處分された。かくて、スタンダードは從來の過半數支配から少數派支配に移行した。

註一　Liefmann, a. a. O. SS. 224—225．ただしリーフマンは三一社しか掲げない。

註二　a. a. O. S. 226 より

註三　Seager and Gulick, ibid., p. 127.

スタンダードの到達した獨占によつてかちえた利潤は莫大であつた。一八七三年から一八八〇年までのスタンダードの配當はつぎのごとし。

一八七三年（一一月の第一月曜日に終る年度）	三四七、六一〇弗
一八七四年	三五八、六〇五
一八七五年（資本金二百五〇弗から三百五〇万弗に增加）	五一四、二三〇
一八七六年	五〇一、二八五
一八七七年	三、二四八、六五〇・〇一
一八七八年	八七五、〇〇〇
一八七九年	三、一五〇、〇〇〇
一八八〇年	一、〇五〇、〇〇〇

Tarbell, ibid., p. vol. 11, p.200 より

一八七七年の著しい增加は、スタンダードが輸出價格の引上げを行つた年度であり、三百五〇万弗の資本で約三百二五万弗の配當を支拂つた。一八七九年は全國精油能力の $9/10$ を結集して、石油トラストを結成した年であつた。「スタンダードがこれらの多額をえつゝあつた間に、石油生産者はかれらの財産が減價したのを見た。そしてかれらの石油

の價値はそれを集荷し貯藏するために、スタンダードの課した價格によつて二年ごとに喰いつくされた。[註一]」トラスト協定の改正された一八八二年から一九〇六年までのスタンダードの利潤獲得狀態は第六表のごとくであつた。

第6表　スタンダードの配當および利潤

年度	トラスト證券または資本金	配當額	配當率	純收益	純收益／資本金
	千弗	千弗	%	千弗	%
1882	71,116	3,695	5.25	12,338	17.4
1883	71,730	4,268	6.00	11,231	15.7
1884	71,230	4,288	6.00	7,778	10.9
1885	71,230	7,479	10.50	8,382	11.8
1886	73,355	7,226	10.00	15,350	20.9
1887	90,187	8,463	10.00	14,026	15.6
1888	90,293	10,236	11.50	12,757	14.1
1889	90,344	10,620	12.00	14,845	16.4
1890	96,941	11,200	12.00	19,131	19.7
1891	97,219	11,648	12.00	16,331	16.8
1892	97,250	11,874	12.21	19,174	19.7
1893	97,250	11,670	12.00	15,457	15.9
1894	97,250	11,670	12.00	15,544	16.0
1895	97,250	16,532	17.00	24,078	24.8
1896	97,250	30,147	31.00	34,077	35.0
1897	97,250	32,092	33.00	47,443	48.8
1898	97,250	29,175	30.00	47,443	48.8
1899	97,250	32,092	33.00	47,443	48.8
1900	97,448	46,691	48.00	55,501	57.0
1901	97,448	46,775	48.00	52,291	53.7
1902	97,448	43,851	45.00	64,613	66.3
1903	97,448	42,877	44.00	81,336	83.5
1904	98,338	35,188	36.00	61,570	62.6
1905	98,338	39,335	40.00	57,459	58.4
1906	98,338	39,335	40.00	83,122	84.5

Jones, ibid., p. 88

スタンダードの配當は、一八八二年―一九〇六年の間に五四八、四三六、四四六弗であり、年平均二四%の配當を支拂つた。一九〇六年に終る一〇年間の配當は三〇%から四八%にわたり、平均して三九・七%であつた。さらに大部分の利潤は株主に分配されずに蓄積された。すなわち、一八八二年―一九〇六年間の總純收益は八三八、七八三、七八三弗に達し、配當を超えること實に二九〇、三四七、三三七弗であつた。一八八二年における資產の評價價値は五五、七一〇、六九八弗であつたが、これに一八八二年以來追加投資された額を加算すると、一九〇六年には六九、〇二四、四八

○弗に達していた。この超過價値は剩余收益（支拂—資本）の再投資によるものであつた。[註二] スタンダード各社の狀態については、一八九六年の總合貸借對照表がある。（第八表）

この時期のスタンダードの利潤の增大に關し、會社局（Report on the Petroleum Industy part Ⅱ）は「國內消費者は石油獨占に法外な貢納を支拂わされていた。[註三]」と述べていた。

さらに、解散後のスタンダード・グループ現金配當はつぎの第七表ごとし。

第7表　スタンダード石油グループの現金配當　1912—1930

1930	286,666,728弗
1929	269,645,927
1928	218,740,335
1927	213,693,223
1926	200,327,594
1925	153,506,099
1924	150,338,555
1923	138,423,295
1922	129,039,865
1921	115,294,292
1920	115,776,793
1919	105,901,477
1918	103,480,916
1917	99,957,923
1916	98,627,875
1915	62,401,204
1914	62,692,884
1913	107,795,361
1912	51,686,634
	2,684,051,980

Laidler, ibid., p. 25

スタンダード・グループは利潤の獲得にあたつて、解散後も依然として協調的であつたということは、諸會社の以上のごとき配當の累年的增加によつても示される。この期間はガソリンの需要が飛躍的に增加した期間であつた。一九一一年から一九二八年の一七年間にスタンダード・グループを構成する各會社の配當のみに約三五億弗（三、四六三、六一七、二一七弗）、年平均二億弗以上を支拂つた。一八八二年—一九〇六年の二四年間の平均はこの約 1/10 にすぎなかつた。この三五億弗は現金配當に二、〇一二、七二八、四二二弗、株式配當に一、四五〇、八八八、七九五弗であつた。[註四]

以上によつて、スタンダードの利潤は莫大であることは明瞭である。一九〇六年に終る一〇年間に利潤は年平均約六千万弗であつた。しかるに、配當は年平均約四千万弗であつた。この期間における石油事業への追加投資に對しては、二千万弗の配當せざる利潤をもつて充分であつた。配當の 1/3 はロックフェラーの手に、殘りのうちの約九〇%は小數の〝スタンダード石油家族〟の手に歸した。この莫大な額は投資されなければならない。しかし、石油事業はそれを需要し

總合貸借對照表

1896年12月31日

名目		負債		
負債	純價値	資本金	剰余または不足	純價値
弗 8,997,759.61	弗 7,991,619.67	弗 2,530,666.66	弗 5,460,953.01	—
357,691.56	11,159,694.91	5,000,000.00	6,159,694.91	—
302,998.58	12,849,628.13	10,000,000.00	2,849,628.13	—
352,320.90	6,187,827.77	5,000,000.00	1,187,827.77	—
198,645.38	4,838,207.31	5,500,000.00	661,792.69	—
7,821.80	3,206,986.11	1,000,000.00	2,206,986.11	—
23,296,866.66	26,032,543.39	25,455,200.00	577,343.39	—
202,139.33	6,829,499.02	5,000,000.00	1,829,499.02	—
44,161.69	1,178,606.42	1,000,000.00	178,606.42	—
11,384.76	311,775.28	1,967,100.00	1,655,324.72	—
326,923.43	4,816,089.18	2,000,000.00	2,816,089.18	—
298,137.91	1,563,034.55	500,000.00	1,063,034.55	—
66,929.31	3,534,620.54	5,000,000.00	1,465,379.46	—
1,278,580.96	11,758,002.30	2,500,000.00	9,258,002.30	—
3,372,518.91	4,650,508.22	1,000,000.00	3,650,508.22	—
49,835.90	4,661,155.17	1,000,000.00	3,661,155.17	—
2,396,607.81	16,937,116.02	10,000,000.00	6,937,116.02	—
48,919,899.34	12,859,930.87	7,000,000.00	5,859,930.87	—
1,013,373.13	2,904,914.78	3,500,000.00	595,085.22	—
11,653.38	2,944,505.01	3,500,000.00	555,494.99	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
91,506,250.35	—	—	—	—
—	147,216,264.65	—	—	—
—	—	98,452,966.66	—	—
—	—	—	48,763,297.99	—
—	—	—	—	147,216,264.65
—	—	—	—	4,135.25
—	—	—	—	147,220,399.90

Tarbell, ibid., vol. II, pp. 390—391.

第8表　スタンダード石油の

	資産		
	工場	その他資産	總額
	弗	弗	弗
Anglo-American Oil Co.	6,111,436.75	10,877,942.53	16,989,379.28
Atlantic Refining Co.	4,879,636.08	6,637,750.39	11,517,386.47
Buckeye Pipe Line Co.	4,559,213.27	8,593,413.44	13,152,626.71
Eureka Pipe Line Co.	1,489,533.37	5,050,615.30	6,540,148.67
Forest Oil Company	4,236,370.10	800,482.59	5,036,852.69
Indiana Pipe Line Co.	992,426.01	2,222,381.90	3,214,807.91
National Transit Co.	6,800,056.66	42,529,353.39	49,329,410.05
New York Transit Co.	1,860,334.55	5,171,303.80	7,031,638.35
Northern Pipe Line Co.	639,001.65	583,766.46	1,222,768.11
N. W. Ohio Nat. Gas. Co.	118,679.71	204,480.33	323,160.04
Ohio Oil Co.	4,832,307.19	310,705.42	5,143,012.61
Solar Refining Co.	537,797.54	1,323,374.92	1,861,172.46
Southern Pipe Line Co.	1,527,175.80	2,074,374.05	3,601,547.85
South Penn Oil Co.	11,300,603.72	1,735,979.54	13,036,583.26
Standard Oil Co., Indiana	3,105,001.95	4,918,025.18	8,023,027.13
〃 Kentucky	474,352.83	4,236,638.24	4,710,991.07
〃 New Jersey	5,469,277.44	13,864,446.39	19,333,723.83
〃 New York	4,957,545.26	56,822,284.95	61,779,830.21
〃 Ohio	1,166,013.90	2,752,274.01	3,918,287.91
Union Tank Line Co.	2,615,594.64	340,563.75	2,956,158.39
工場總額	67,672,358.42	—	—
その他資産	—	171,050,156.58	—
資産總額	—	—	238,722,515.00
負債 Less Actual Liabilities	—	—	—
純價値總額	—	—	—
資本金總額	—	—	—
未配當利潤總額	—	—	—
資本および剰余金總額	—	—	—
その他のスタンダード石油トラスト資産	—	—	—
總額	—	—	—

ない。あらゆる冒険に對して充分な準備金が存在する、したがつて、それは他の事業部門に向けなければならない。[註五] そのなかで顯著な例は鐵道であつた。鐵道は全工業の依存する部門であり、また石油生産物の大消費者でもあつた。二〇世紀のはじめ、スタンダードの取締役は全國の大鐵道の取締役となつていた。[註六] なおこの關係は National City Bank および New York City and Boston の同盟組織 allied institutions、銅工業、鐵鋼業、電燈、ガス事業等にもわたつていた。

註一　Tarbell, ibid., p. 229.

註二　Jones, ibid., p. 89.

註三　ibid., p. 90.

註四　Laidler, ibid., p. 25.

註五　Tarbell, ibid., p. 268.

註六　New York Central, New York, New Haven and Hartford, Chichago, Milwaukee and St. Paul, Union Pacific, Northern Pacific, Delaware, Lackawanna and Western, Missouri Pacific, Missouri, Kansas and Texas, Boston and Main その他の小鐵道。

（一九五一・三・二〇）